

至誠館大学

科目名	ジェンダー論			コード		
英語表記	Gender Studies					
担当教員名	山口季音			年度	平成28年度	
基準年次	1年次	開講期	後期	単位数	2	
授業形態	講義	授業形式		履修形態	選択	
ジェンダー（Gender）とは、一般的には、「社会的文化的性別」を意味する用語である。男性・女性という性別は、身体的な区別である以上に、その「男らしさ」「女らしさ」イメージが私たちに大きく影響する。本授業では、私たちにとってたいへん身近な事柄である「性別」を考えるを通して、日常生活を捉え直す力を養うことを目的とする。						
到達目標						
①ジェンダーに関する基礎知識を獲得する。②性別にかかわるイメージが私たちに与える影響について知る。③性別について考えるを通して日常生活を捉え直す視点を獲得する。						
授業計画						
第1回	オリエンテーション ―ジェンダーとは何か―					
第2回	身体とジェンダー					
第3回	歴史・文化とジェンダー					
第4回	教育におけるジェンダー					
第5回	現代日本のジェンダー構造					
第6回	ジェンダーと社会運動					
第7回	男性学入門					
第8回	男子問題					
第9回	女性の貧困問題					
第10回	暴力とジェンダー					
第11回	小括 ジェンダー平等とは					
第12回	ジェンダーとセクシュアリティ①					
第13回	ジェンダーとセクシュアリティ②					
第14回	グローバル社会とジェンダー					
第15回	まとめ					
評価方法と基準		評価項目と割合（％）				
授業態度、授業内課題およびレポートで評価する。		出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
			30	50		20
授業外学習		テキスト、教材				
配布資料や講義の内容を復習することが望ましい。		なし。適宜資料を配布する。				
参考書		受講生へのメッセージ				
伊藤公雄『ジェンダーの社会学』放送大学教育振興会、2008年 木村涼子ほか『よくわかるジェンダー・スタディーズ』ミネルヴァ書房、2013年		自分自身の身近な出来事と社会の問題を結び付けられる視点を養ってください。				
キーワード						
ジェンダー・男らしさ・女らしさ・セクシュアリティ						